

JA全農 **ウィークリー**
WEEKLY

9
面

全国豆腐品評会で全農賞を贈呈

2面

生産者の声反映したトラクター出荷スタート



出荷が始まった生産者の声を反映したJAグループ共同購入トラクター(2面)



「ヨーグルスタンドB1乳酸菌」の新発売で内堀雅雄福島県知事(中央)を表敬訪問した今長谷浩東北協同乳業(株)代表取締役(左から2人目)と河合和人日本コカ・コーラ(株)マーケティング本部ジュースカテゴリーシニアマネジャー(右から2人目)(4面)



予選を勝ち抜いた豆腐が審査会場に並べられた全国豆腐品評会最終審査(9面)

- 2 10月2日の「直売所の日」PRでイベント(広報部)
 - 3 神出理事長がドイツ・ボン大学で
全農の取り組み発信(耕種総合対策部)
英国の日系清酒醸造所が開所記念式典を
開催(JA 全農インターナショナル欧州(株))
 - 4 “11/19-B1乳酸菌”入り飲料
コカ・コーラから新発売(酪農部)
地元菓子店と「青森ながいもフィナンシェ」開発(青森県本部)
 - 5 今秋本格デビューの米「雪若丸」新CMを発表(山形県本部)
マラソン、サッカー会場で赤飯おにぎり、
焼き餅配布しPR(米穀部)
 - 6 大阪の商談会に全農グループ会社と共同で
初出展(営業開発部)
国際都市おおたフェスティバル in「空の日」
羽田に秩父4日クラブと出展(TAC推進課)
 - 7 SDGsで研修会(麦類農産部)
認知症フレンドリープロジェクトで
農福連携に関する講演(広報部)
 - 8 第2回和牛甲子園 出場校が決定
(畜産総合対策部)
 - 10 JAズームイン(JA新居浜市)
 - 11 JAズームイン(JAみちのく村山)
 - 12 労災注意喚起ポスターを作成(米穀部)
JAタウンショップ紹介
味が自慢のJA江刺(岩手県)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



www.zennoh-weekly.jp/

News!



生産者の声を反映したトラクター出荷開始

年間1500台を超える取扱計画積み上がる

生産資材部

出荷が始まったJAグループ共同購入トラクター



メーカーへ開発要求に当たって、3年間で1000台の取り扱いを目標としていましたが、6月の製品発表後に都府県別の取扱計画を策定したところ、3年間合計1500台を超える取扱計画が積み上がりました。

生産者とJA農機担当者1万人の声を反映させて、メーカーへ開発要求したJAグループ共同購入トラクターYT357JZUQHの生産・出荷がスタートしました。トラクターは、ヤンマー農機製造(株)岡山工場のラインで生産されます。10月5日に第1号の量産機を出荷しました。

メーカーへ開発要求に当たって、3年間で1000台の取り扱いを目標としていましたが、6月の製品発表後に都府県別の取扱計画を策定したところ、3年間合計1500台を超える取扱計画が積み上がりました。

また、安心してお使いいただけるように、JAグループオリジナルの「簡単作業の仕方」と「セルフメンテナンス」のパンフレットを納品時にお渡ししています。

JAグループオリジナルの「簡単作業の仕方」と「セルフメンテナンス」のパンフレット



News!



10月2日の「直売所の日」PRでイベント

記念日登録証の授与と特別ゲストがトークショー

広報部



「直売所の日」PRイベントに参加した、後列右から須藤正敏全中副会長、山崎周二全農代表理事専務、村山美彦JA共済連代表理事専務、後藤彰三農林中金代表理事専務、前列右から北澤豪さん、浜辺美波さん、林修さん、松下奈緒さん

イベントではまず、日本記念日協会から記念日登録証の授与式が行われました。JA全中の須藤正敏副会長は「JAならびにJAファーマーズマーケットが地域の皆さまから必要とされる存在になるよう、生産者と力を合わせ努力していきます」とあいさつしました。

その後、JAグループサポーターの林修さん、JA

JAグループは、10月2日を「直売所（ファーマーズマーケット）の日」に登録したことを受け、東京都内で9月30日、PRイベントを開きました。

全農チビリンピックサポーターの北澤豪さん、JA共済キャラクターの浜辺美波さん、JAバンクイメージキャラクターの松下奈緒さんによるトークショーが行われました。北澤さんは、趣味で畑を借りて野菜作りに熱中して「作った野菜を直売所に出荷してみたい」と語りました。

「直売所の日」キャンペーンサイトはこちら



JAファーマーズマーケットでは、2000円以上お買い上げの方を対象に、抽選で国産の農畜産物が当たるキャンペーンを実施しています。詳しくは、ウェブサイトでご確認ください。



ドイツ・ボン大トリプル周年記念祝賀会で全農の取り組み発信

3つの協同をテーマに神出理事長が講演

耕種総合対策部



ボン大学で講演する神出理事長

このイベントは、「一人で出来ないことも、多くの人が助け合えば成し遂げられる」というライファイゼンの名言をモットーに開催されました。神出理事長は「組合員・地域住民との協同」「他の協同組合との協同」「国境を越えた協同組合との協同」の三つの協同を取り上げて講演しました。講演では、「日本の水田稲作が農村社会の助け合いや共助の精神で2000年以上受け継がれ

ドイツのボン大学は9月20日、「ライファイゼン生誕200周年」「ボン大学創立200周年」「マイシヨス・アンテナール協同組合(ワイン醸造協同組合)創立150周年」の三つの周年記念祝賀会を開催しました。神出元一理事長は招待を受け、講演しました。

ていること」「全農は取扱金額では、農業・食品産業部門の協同組合の中で世界最大の組織であること」「全農は国内の生協と協力してアメリカの遺伝子組換え穀物を分別管理していること」「全農はアメリカ・アルゼンチン・タイの農協と合併会社を設立して、安定的な取引を継続していること」を解説したところ、聴衆から驚きの声と拍手喝采がありました。

ライファイゼン協会会長ベルナー・ボーンケ氏からは「協同組合は今こそタイムリーなものだ。教育啓蒙は重要であり、知識がないと自立できない。まずは強みを持つ、勇気を持つ、そして他者に頼らない精神を持つ。そうやって成功を収めることが大変重要だ」という力強い発言がありました。



英国の日系清酒醸造所が開所記念式典を開催

海外への酒米供給通じて米の輸出拡大を図る

JA 全農インターナショナル欧州(株)



清酒醸造所の開所をテープカットで祝う日英の関係者

この醸造所は、大阪市の「堂島麦酒醸造所」が英国ケンブリッジシャー州に建設したもので、全農パールライス(株)灘工場が精米した「秋田県産秋田酒こまち」と「兵庫県産山田錦」をJA全農インターナショナル(株)が納入しました。同醸造所ではこの酒米を使用して、今年4月から日本酒の生産を開始しました。

式典には鶴岡公二駐英大使や地元国会議員をはじめ、日英両国の関係者が多数出席し、盛大に行われました。今回披露された製品は主に、「堂島(Dojima)」と

JA全農インターナショナル(株)が日本産の酒米を納入した英国の清酒醸造所は9月14日、現地で開所記念式典を行いました。



日本産酒米を使った清酒

「懸橋(Cambridge)」という2種類の純米酒で、いずれも酒米は100%日本産を使用し、720ミリボトルで価格は1000ポンド(約14万8000円)です。今後、高価なプレミアム純米酒として、英国や諸外国で販売されます。また、醸造所の見学ツアーを実施することや、今後はレストランを建設するなど、複合的な観光施設を造る計画です。

和食人気の高まりとともに、清酒の輸出は年々増加していますが、清酒そのものの輸出拡大に加えて、海外で現地生産される清酒への酒米供給も行い、日本産米の輸出拡大に取り組んでいきます。

News!



「11/19-B1 乳酸菌」入り飲料 コカ・コーラから新発売!

さっぱりとしたプレーンヨーグルトの味わいで健康維持サポート

酪農部

「ヨーグルスタンドB1乳酸菌」のPOP



新商品の発売で内堀雅雄福島県知事(中央)を表敬訪問した今長谷浩東北協同乳業(株)代表取締役(左から2人目)と河合和人日本コカ・コーラ(株)マーケティング本部ジュースカテゴリーシニアマネジャー(右から2人目)

この商品に使用されている「11/19 B-1 乳酸菌」配合の発酵乳は、飲料に使用できるよう、東北協同乳業(株)・協同乳業(株)・全農酪農部が新たに共同開発しました。「ヨーグルスタンドB1 乳酸菌」はさっぱりとしたプレーンヨーグルトの味わいで毎日でも飲みやすく、日々

日本コカ・コーラ(株)は10月1日、「11/19 B-1 乳酸菌」を使用した新商品「ヨーグルスタンドB1 乳酸菌」を全国で発売しました。「11/19 B-1 乳酸菌」は、東北協同乳業(株)が、東京大学、ゲノム創薬研究所などと共同で特許を出願しています。

忙しく働く人でもシーンを問わずおいしく飲んでいただけます。健康維持や体調管理が気になる秋から冬の季節にぴったりの新しい健康維持サポート飲料を、東北協同乳業から販売中の「11/19 B-1 乳酸菌ヨーグルト」と合わせて、ぜひこの機会にご賞味ください。

News!



地元菓子店と「青森ながいもフィナンシェ」開発

青森県産やさいのファン獲得を目指す

青森県本部



「青森ながいもフィナンシェ」のPRポスター



地元菓子店とタイアップし完成した「青森ながいもフィナンシェ」

日常生活にスイーツが浸透している現状と、「健康」に対する関心の高まりに着目し、健康を意識したオリジナルスイーツが完成。ながいもの甘露煮とすりおろ

青森県本部は地元菓子店とタイアップし、焼き菓子・「青森ながいもフィナンシェ」を開発し、10月から販売を始めた。

したながいも、太白胡麻油を生地に練り込みふんわりと焼き上げています。また、表面にしょうゆを塗って2度焼き、やさしい味わいに仕上げました。

青森ながいもフィナンシェを広く普及させ、県産やさいの新規ファン層の獲得と消費拡大を目指します。青森市の「スイーツラボ キャンデー」や「La Factory」などで販売中。価格は、1個税別180円、1箱5個入り税別1100円。



今秋本格デビューの米「雪若丸」新CMを発表

ブレイク中の俳優 田中圭さん起用で早期ブランド化目指す

山形県本部

「雪若丸」新CMを発表した左から吉村知事、田中圭さん、長澤会長（山形県提供）



新CMのキャラクターには、テレビドラマでブレイクし、現在人気と注目を集めている俳優の田中圭さんを起用。CM撮影では台本をあえて用意せず、初めて「雪若丸」を食べる田中さんのあ

りのままの姿と率直なコメントを生かして、おいしさを物語るという内容になっています。「雪若丸」は、しっかりとした粒感と適度な粘りが特徴のお米です。田中さんは

その特徴を「コメ応援」という言葉を用い、これまでにない新しい食感のおいしいお米ということとを表現しました。

新CMは、同日から首都圏や関西圏をはじめとする大消費地と県内で放映。「つや姫」同様、全国を代表するブランド米と成長するよう、早期ブランド化をはかります。

山形県や山形県本部などで組織する、山形「つや姫」「雪若丸」ブランド戦略推進本部は10月6日、東京・永田町のザ・キャピトルホテル東急で、米新品種「雪若丸」の新CM発表会を開きました。同本部本部長の吉村美栄子山形県知事、山形県本部の長澤豊運営委員会会長をはじめ関係者ら120人が出席しました。



マラソン、サッカー会場で赤飯おにぎり、焼き餅配布

おもちはスポーツに適した食材と継続的なPR実施

米穀部

ゴールしたランナーに赤飯おにぎり（宮城県産もち米使用）を配布（仙台市）



キックオフ前にサポーターへ焼き餅（新潟県産もち米使用）を配布（新潟市）



全農は今後もスポーツ大会などを利用して国産もち米の消費拡大に取り組んでいきます。

当日はファンラン6キロ、フルマラソンの2コースに分かれて、総勢1万4000人のランナーが震災からの復興が進む海岸沿いのコースを疾走しました。完走したランナーに、赤飯おにぎり1万2000個を配布し、「レース後の栄養

約1万6000人のサポーターが集い、キックオフの2時間前には2000個すべて配布し終えました。全農は今後もスポーツ大会などを利用して国産もち米の消費拡大に取り組んでいきます。

全農は、スポーツ大会など競技者・応援者を対象に、餅やもち米がスポーツに適した食材であることのPR活動を継続的に実施しています。

News!



大阪の商談会に全農グループ会社と共同で初出展

フードストアソリューションズフェア2018でグループ商品を提案

営業開発部



大阪で初開催の「フードストアソリューションズフェア2018」の全農ブース



各社コラボのメニューを提案

会場（インテックス大阪）の全農ブースでは各社コラボのメニュー提案を行い、全農たまごの「とくたま」と全農パールライスの「GABA米」で「たまごかけごはん」、全農チキンフーズの「とり天入りおにぎり」などの試食も提供し、行列ができるほど好評でした。

来場者から「吉田ハムの物流を使って全農ブランド商品の取引がしたい」などのお声掛けもあり、グループで出展したことの効果と、取引先への総合提案の重要性を実感しました（来場者：1万1121人、運営事務局発表）。

営業開発部は9月20、21の両日、百貨店・量販店ほか食品小売業の関係者を対象とした、大阪で初開催の「フードストアソリューションズフェア2018」に、グループ各社（全国農協食品㈱、全農パールライス㈱、JA全農たまご㈱、全農チキンフーズ㈱、協同乳業㈱、㈱吉田ハム）、生活リテール部と共同出展しました。

News!



国際都市おおたフェスティバルin「空の日」羽田に秩父4Hクラブと出展

生活者に直接PR、充実したイベントに

TAC推進課

秩父4Hクラブと全農のブース



秩父4Hクラブとの出展は今年度で4度目となりますが、今年は台風24号が接近し、あいにくの荒天の中でしたが、毎年購入されるお客さまや、秩父出身で都内在住のお客さまが多く見えました。しいたけや栗の「ぼろたん」、長瀬いちごサ

イダー、いちごプリンを販売し、生活者に秩父の農産物をPRしました。中でもその場で調理するしいたけ天ぷら串は大変肉厚、ジュシーで多くのお客さまが舌鼓を打ち、大人気でした。

秩父4Hクラブの斉藤会長からは「生活者に農産物を直接PRできる機会は貴重でありがたい。数多くのイベントに出展しているが、これほどお客さまから好評なものはなく、大変充実したイベントになった」と喜びの声が聞かれました。

TAC推進課では、若手農業者団体とともに、生産者と生活者を結び付け、地域農業の魅力を発信していくことに力を入れていきます。

耕種総合対策部TAC推進課は秩父4Hクラブと連携し、9月29日の国際都市おおたフェスティバルin「空の日」羽田に共同出展しました。



SDGsについて理解深める

JCAから講師を招き研修会

麦類農産部



SDGsに関する講演を行うJCAの文殊正也主任研究員

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで、国連加盟193カ国が2016〜2030年の間の達成を目指して掲げた目標です。「貧困をなくそう」など17の目標からなります。麦類農産部は国産原料ジャムなどの加工食品や国産果汁のジュースなどで生協グループと取引が多く、SDGsに関する知識が必要のため、JCAに要請し

麦類農産部は9月19日、日本協同組合連携機構（JCA）から講師を招き、持続可能な開発目標（SDGs）に関する研修を行いました。

て開いたものです。麦類農産部の職員を中心に21人が参加しました。

研修では、JCA協同組合連携部の文殊正也主任研究員が「SDGs―協同組合の役割を身近な事業や活動から考える」と題した講演を行い、次に①全農の事業を洗い出してSDGsと関連付ける、②「全農SDGs宣言」を作ってみようという二つの課題でグループワークを行いました。4班に分かれた参加者は活発な議論を行い、SDGsについて理解を深めました。



全農とSDGsの関係についてグループワークを行う参加者



認知症や障がいのある方と作る農業の新たな可能性探る

認知症フレンドリープロジェクトで農福連携に関する講演

広報部

朝日新聞社が主催し全農が協賛する「認知症フレンドリープロジェクト」イベントが9月22日、東京都内で開かれ農福連携についての講演が行われました。

このイベントは朝日新聞社創刊140周年記念事業の一つとして開かれ、認知症について、暮らし、備え、治療、ケア、共生などさまざまな角度から考えるというもので、約800人が参加しました。

その中で、JA共済総合研究所研究員で全国農福連携推進協議会会長の濱田健司氏が登壇し、「農」の福祉力。認知症への可能性」について講演しました。

濱田氏は「農福連携は、農業現場の労働力不足の問題と、福祉サイドの障がいのある方の就労の場を求める課題がマッチし、全国で広がっている」「農業に従事することで障がい者の方々の心身に改善がみられている」と話し、農業の新たな可能性について話しました。

参加者からは、「農業は認知症だけでなく、障がいのある方への癒やしにもなる。農業の新しい可能性を感じた」との感想が聞かれました。



農福連携について講演する濱田氏



濱田氏の講演には多くの聴講者が参加

第2回和牛甲子園 出場校が決定



和牛甲子園

初出場8校が加わり、23校の“高校牛児”たちが頂点目指す

来年1月に開催予定の和牛甲子園に、11県から23校が出場することが決まりました。前回の第1回大会に出場した15校に加え、新たに8校が出場します。

【畜産総合対策部】



第1回和牛甲子園の体験発表会

和牛甲子園は、①将来の担い手への支援、②将来の担い手のネットワーク創出、を目的に、全国の高校で和牛を肥育している高校生たちが、自分たちで育てた和牛の肉質と日頃の取り組み内容を競い合う大会です。来年1月の第2回大会開催に向けて、参加校を募集していました。

応募期限の9月末に出場校が決まりました。前回の第1回大会に出場した15校は全て参加予定で、新たに8校から申し込みがあり、合計23校の出場が決定しました。出品頭数も前回の21頭から7頭増え、28頭の予定となりました。

出場校が増え、広がりを見せる和牛甲子園。“高校牛児”たちの熱い戦いにご期待ください。

第2回和牛甲子園 出場校

No.	出場校	初出場	出品頭数
1	岩 手 水沢農業高等学校		2
2	岩 手 遠野緑峰高等学校		1
3	宮 城 小牛田農林高等学校	初	1
4	栃 木 矢板高等学校		1
5	栃 木 那須拓陽高等学校		1
6	栃 木 鹿沼南高等学校		2
7	栃 木 宇都宮白楊高等学校		2
8	栃 木 真岡北陵高等学校	初	1
9	栃 木 栃木農業高等学校		1
10	富 山 県立中央農業高等学校		1
11	岐 阜 飛騨高山高等学校		2
12	岐 阜 加茂農林高等学校		2
13	岐 阜 大垣養老高等学校	初	1
14	三 重 相可高等学校		1
15	滋 賀 長浜農業高等学校	初	1
16	島 根 出雲農林高等学校		1
17	佐 賀 唐津南高等学校		—※
18	長 崎 諫早農業高等学校	初	1
19	鹿児島 鶴翔高等学校		1
20	鹿児島 鹿屋農業高等学校		1
21	鹿児島 市来農芸高等学校	初	2
22	鹿児島 加世田常潤高等学校	初	1
23	鹿児島 曾於高等学校	初	1
合 計			28

※ 唐津南高校は出品予定牛急死のため、和牛肥育体験発表会のみ出場

【第2回和牛甲子園の概要】

日時 平成31年1月17日(木)～18日(金)

場所 (1)フクラシア品川クリスタルスクエア(体験発表会、褒賞式など)
東京都港区港南1-6-41

(2)東京都中央卸売市場食肉市場(枝肉共励会、枝肉勉強会など)
東京都港区港南2-7-19

主催 全農

後援 独立行政法人農畜産業振興機構(alic)、
全国農業高等学校長協会、公益財団法人
全国学校農場協会、東京都中央卸売
市場食肉市場、東京食肉市場株式会社
ほか

全国豆腐品評会で全農賞を贈呈

腕自慢の豆腐店を表彰し国産大豆の消費拡大後押し

全農は9月29、30の両日、札幌市で開かれた第4回全国豆腐品評会（一般財団法人全国豆腐連合会主催）で、入賞した豆腐製造者に全農賞（銀賞）を贈りました。

【麦類農産部】

今年で第4回目となる全国豆腐品評会は、北海道命名150周年という節目を記念して札幌市で開催されました。これに先立

ち、全国211の事業者・出品総数537点による予選会が行われ、各ブロックの予選を勝ち抜いた97事業者の161点が会場に運

ばれ、24人の審査員が厳正に審査しました。

豆腐は日本人になじみの深い伝統食品ですが、原料である大豆へのこだわりに加え、にがりなどの凝固剤や製法にも工夫や進化が見られることから、審査に当たっては四つの部門「寄せ・おぼろ豆腐」「木綿豆腐」「絹ごし豆腐」「充填豆腐」が設けられています。作り手の技とアイデアが豆腐一丁に込められており、審査結果の発表には多くの出品者と関係者が固唾をのんで見守りました。

各部門上位4位までが入賞となり、金賞の中から、沖縄県宮古島市の出品者「まことうふ」の『濃厚おぼろ豆腐』が農林水産大臣賞（最優秀賞）に選ばれました。

全農は豆腐・油揚げ用途に年間約10万トンの国産大豆を供給しています。実需者である豆腐製造者と豆腐品評会を応援することで、国産大豆の消費拡大を後押しし、円滑な販売・供給に努めていきます。

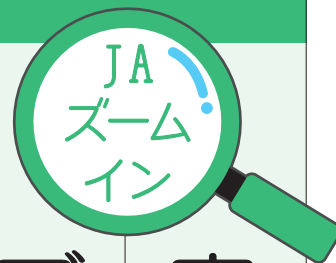
各部門の受賞一覧

	部門	製品名	出品者
金 賞			
＜最優秀賞＞ 農林水産大臣賞	寄せ／おぼろ豆腐	濃厚おぼろ豆腐	まごとうふ(沖縄県)
農林水産省 食料産業局長賞	木綿豆腐	特選木綿	(株)とうふ工房ゆう(東京都)
	絹ごし豆腐	霜里きぬ豆腐	(有)とうふ工房わたなべ(埼玉県)
	充填豆腐	はらから 秘伝の絹	(社福)はらから福祉会 蔵王すずしろ(宮城県)
銀 賞			
全国農業協同組合 連合会賞	寄せ／おぼろ豆腐	茶豆おぼろとうふ	伊東豆腐店(宮城県)
	木綿豆腐	霜里もめん豆腐	(有)とうふ工房わたなべ(埼玉県)
	絹ごし豆腐	とうふ工房 味華 絹豆腐	とうふ工房 味華(群馬県)
	充填豆腐	充填絹	(有)京とうふかわむら(京都府)
銅 賞			
(一財)全国豆腐 連合会賞	寄せ／おぼろ豆腐	特選よせとうふ	(株)とうふ工房ゆう(東京都)
	木綿豆腐	菜の花とうふ(木綿)	豊産商事(千葉県)
	絹ごし豆腐	弟が作った絹ごし豆腐	(株)とうふ工房ゆう(東京都)
	充填豆腐	絹香	上田とうふ(株)(京都府)
特別賞			
農研機構賞	寄せ／おぼろ豆腐	特選石臼挽きおぼろ	豆の力屋 いづみ産業(有)(大分県)
	木綿豆腐	能登生とうふ	日月豆腐店(石川県)
	絹ごし豆腐	最高級極上とうふ	(株)マスダ宮田とうふ工房(長野県)
	充填豆腐	銭型豆腐	(株)カンショク(香川県)



受賞者の皆さんと激励に訪れた山田俊男参議院議員（日本の豆腐文化を守る議員連盟事務局長・前列右から3人目）

予選を勝ち抜いた豆腐が審査会場に並べられた最終審査



安全・安心でおいしい地元産



ブランド米契約栽培で所得向上へ

JA新居浜市は、愛媛県新居浜市（別子山を除く）を区域とし、1691年の別子銅山の開坑によって繁栄した四国屈指の臨海工業都市で、人口約12万人の都市

です。管内の昨年度の水稲作付面積は321㌔で自家消費の飯米農家が多く、野菜、果樹については共同販売を行っているイチゴ、キュウ



今年もたわわに実った契約栽培のブランド米「新居の恵み」の収穫



ブランド米「新居の恵み」と地元酒造メーカーが製造する甘酒

リ、サトイモ、一寸ソラマメ、ミカン、カブス（カボス）が主要品目です。畜産は、豚一貫経営1戸、採卵鶏経営1戸です。

栽培指針示し肥培管理徹底 直接買い取りで独自販売

JA新居浜市は、農業者の所得増大につなげるとともに、消費者に安全・安心でおいしいお米を届けたいと、2015年度からブランド米「新居の恵み」の生産・販売を始めました。品種は「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「にこまる」の3品種で、JAが育苗した苗を、契約農家は栽培指針に基づき肥培管理を徹底、指定の有機質肥料を使い、低農薬で栽培します。組合員から契約生

JA新居浜市（愛媛県）



概要

平成30年3月31日現在

正組合員数	2916人
准組合員数	9155人
職員数	140人
販売品取扱高	4億4千万円
購買品取扱高	4億8千万円
貯金残高	775億2千万円
長期共済保有高	1915億8千万円
主な農産物	米、イチゴ、サトイモ、一寸ソラマメ、キュウリ、ミカン、カブス、豚、鶏卵



年々増えている「新居の恵み」の田植え

ている農業まつりでは、「新居の恵み」を使ったおにぎりを販売するなど、イベント時に消費者へ安全・安心でおいしい地元産のお米をアピールしています。また、同市で100年以上の歴史を持つ老舗酒造メーカー・近藤酒造が「新居の恵み」で造った甘酒を販売し人気商品となっています。

産者を募り、生産者とJAが一体となり栽培し、JAが直接買い取り独自販売することで、農家の所得向上につながっています。

3、5、10、30㌔の袋入りで、JA新居浜市の農産物直売所「四季菜広場」と購買店舗「JAグリーン」にはまだ販売しています。同市内なら無料配達も行っています。

イベント時におにぎり消費者にのびるPR

JA新居浜市が毎年開い

15年度の作付面積は3.6㌔で、集荷量11.8㌔、16年度は4.35㌔、15㌔、17年度は9㌔、24㌔を集荷し、完売しました。18年度は10.6㌔で30㌔の集荷を目指しています。今後も生産量を増やし、生産技術と販売体制の確立を目指します。



オープン6周年記念の大売り出しでにぎわう大石田農産物直売所「つなぎ」の店内

JAみちのく村山の
大石田経済事業所
が管理運営する「つ
なぎ」は、新鮮な野菜
や果物、加工品、手芸
品など幅広い品物を
取り扱っています。手
塩にかけた生産物を
出荷販売しているの
は、大石田産直出荷生
産部会のメンバーた
ち。「つなぎ」は黒ニ
ンクやウルイ、ジネ
ンジョなど特徴のあ

産直出荷生産部会員が
手塩にかけた生産物出荷

山形県大石田町の大石田
農産物直売所「つなぎ」は9
月15、16の両日、オープン6
周年を記念して大売り出し
を行いました。開店と同時に

大勢のお客さまが訪れまし
た。同直売所のオープンは
2012年の9月25日で、
毎年この時期に売り出しを
行っています。

る品物が多く、今回の売り
出しでも、部会員たちはサ
トイモやネギ、食用菊、カボ
チャ、ナスなどの旬の野菜
や果物を早朝から店舗に出
荷しました。

開店時刻になると、地元
の主婦のほか、県外からの
観光客などが切れ目なく来
店。ナスの詰め放題が多く
の買い物客の注目を集めた
ほか、山形名物である旬の
郷土料理「芋煮」の材料とし
てサトイモを買い求める人
が大勢おり、あつという間
に売り切れました。先着50人
に用意したプレゼントも好
評でした。

「つなぎ」はJR大石田駅
から車で数分の場所にあり、
有名な団子屋や温泉施設に
も近く、仙台から来たとい

る品物が多く、今回の売り
出しでも、部会員たちはサ
トイモやネギ、食用菊、カボ
チャ、ナスなどの旬の野菜
や果物を早朝から店舗に出
荷しました。

夏には「すいか村」設置
特産直売や全国へ発送も

「つなぎ」は、スイカの選

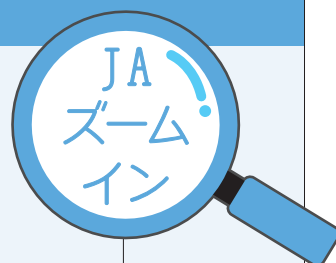


2012年9月にオープンし、大石田の農産物PRを担う「つなぎ」

う観光客の一人は「売り出
しに偶然に出合い、野菜を
安く買うことができてラッ
キーだった」と喜びの表情で
した。

果施設と、米の集出荷を行
う倉庫の2施設に隣接して
います。スイカと米は、大石
田町を代表する農作物です。
特にスイカについては、毎
年夏になると、「つなぎ」店
舗前に直売所「すいか村」が
設置されます。選果場から直
接運ばれてきた選果したて
のスイカを直売し、全国発
送も受け付けています。

「つなぎ」は、店舗を拠点
としつつも、地域で開かれ
るひな祭りやそば祭りなど
の催し、JAが主催するイ
ベントなどでも精力的に出
張販売を行い、大石田の農
産物をPRしています。最
近では町のパン屋さんも生
産部会に加わり、その品目
の多彩さにリピーターも
年々増えています。



大石田の農産物PR担う 農産物直売所「つなぎ」

JAみちのく村山 (山形県)



概要		平成30年3月31日現在
正組合員数	9105人	
准組合員数	3158人	
職員数	349人	
販売品取扱高	168億8千万円	
購買品取扱高	42億9千万円	
貯金残高	703億5千万円	
長期共済保有高	3112億3千万円	
主な農産物	サクランボ、スイカ、米、 牛肉	

労災注意喚起 ポスターを作成

パールライス部門の 労災防止に役立てて



米穀部は、パールライスグループ卸における労災防止の取り組みの一環で、注意喚起ポスターを作成しました。【米穀部】

ポスターは「指差喚呼」「フォークリフト作業時の法令遵守」「機械点検・清掃時の電源OFF」「高所作業時の注意事項」の4種類で、主に精米工場での業務で注意すべき点をテーマにしたものです。

作成には、株式会社全農ビジネスサポートと全農パールライス株式会社の協力の下、米穀部職員をモデルに写真撮影を行い、印象的なデザインに仕上げました。

ポスターはパールライスグループ卸の精米工場に送付し、労災防止の一助として、工場出入り口や事務所玄関などに掲示します。

労災注意喚起ポスター



▲指差喚呼の徹底



▲高所作業時の注意事項



▲機械清掃・点検時の電源OFF徹底



▲フォークリフト作業時の法令遵守



「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン | 検索 クリック

味が自慢のJA江刺(岩手県)



「江刺りんご」の代名詞でもある「サンふじ」! 歯ざわりがよく、蜜も豊富に入って甘い果汁が特長のりんごです。

当産地では「食味を重視」したりんご作りを行っており、すべての園地で樹高を低く抑えた「わい化栽培」や袋を掛けない「完全無袋栽培」で、果実に太陽の光をしっかりと浴びせた栽培方法をとっています。また樹には大きな負担をかけますが、収穫時期をぎりぎりまで遅らせることにより、果実の養分を高めています。

こだわって作った「江刺りんご」をぜひご賞味ください!

なお、ご紹介した商品は、11/9(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。商品代金のほか、お届け先により送料が必要となります。※商品の発送は11月末頃から予定しています。

JA全農のインターネットショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com> ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。